

財務レビュー

経営成績の概要

2021年3月期における太陽誘電を取り巻く経営環境は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の影響により経済活動が抑制され、第1四半期連結会計期間において世界景気は極めて厳しい状況でしたが、徐々に持ち直しの動きがみられました。先行きについては、回復傾向が続くことが期待されますが、感染症の再拡大に十分留意するとともに、各国の通商問題、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要があります。

太陽誘電は、研究開発力や生産技術の強みを活かした最先端商品および高信頼性商品に、コア技術を活かしたソリューションビジネスを加え、自動車、情報インフラ、産業機器、ヘルスケア、環境・エネルギーなどの注力市場を攻略することにより、中期目標の達成および経営ビジョンの実現を目指しています。さらに、収益性の向上や将来の部品需要の増加に応える体制を構築するため、ものづくり力の強化を進めています。生産能力の増強に加え、要素技術の高度化と生産工法の変革を進めることで、生産効率の向上を加速していきます。

2021年3月期は、2020年3月から5月にかけて、新型コロナウイルス感染症の影響によりフィリピン、マレーシアの生産子会社における稼働制限が生じたため第1四半期連結会計期間の業績は低調でしたが、7月以降のスマートフォン向けや自動車向けなどの需要拡大により、増収増益となりました。

これらの結果、2021年3月期の連結売上高は前期比6.6%増の3,009億20百万円となりました。

なお、2021年3月期における期中平均の為替レートは1米ドル105.97円と前期の平均為替レートである1米ドル109.06円と比べ3.09円の円高となりました。

販売費及び一般管理費

2021年3月期の販売費及び一般管理費は、481億88百万円となり、前期に比べ15百万円増加しました。販売費及び一般管理費の主要な項目は、研究開発費125億50百万円、従業員給料手当117億3百万円などになります。

この結果、営業利益は前期比9.7%増の407億66百万円となりました。

営業外損益

2021年3月期の営業外収益は前期に比べ6億6百万円増加し、15億78百万円となりました。一方、営業外費用は為替差損益が差益に転じたことなどにより前期に比べ18億86百万円減少し10億97百万円となりました。

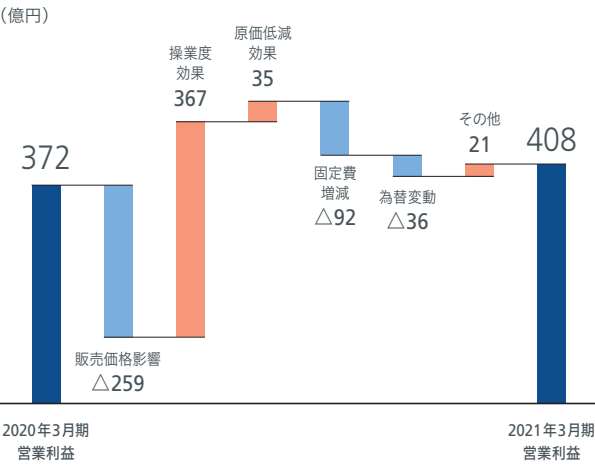
この結果、経常利益は前期比17.3%増の412億47百万円となりました。

特別損益

2021年3月期の特別利益は前期に発生した受取保険金が消滅したこと、前期に比べ9億25百万円減少し、5億91百万円となりました。特別損失は減損損失が大幅に減少し、前期に発生した災害による損失、独占禁止法関連損失が消滅した一方で、海外子会社の新型コロナウイルス感染症関連損失を計上したことなどから、前期に比べ80億35百万円減少し、48億28百万円となりました。

この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比58.8%増の286億15百万円となりました。

2021年3月期営業利益増減要因



財政状態の概況

資産

2021年3月期末における総資産の残高は4,046億42百万円となり、前期末に比べ615億20百万円増加しました。

流動資産は456億69百万円増加しており、主な要因は、現金及び預金の増加246億74百万円、受取手形及び売掛金の増加140億57百万円です。

また、固定資産は158億50百万円増加しており、主な要因は、有形固定資産の増加147億72百万円です。

負債

2021年3月期末における負債の残高は1,607億1百万円となり、前期末に比べ280億33百万円増加しました。主な要因は、1年内返済予定の長期借入金の増加107億99百万円、長期借入金の増加70億35百万円、支払手形及び買掛金の増加51億25百万円です。

純資産

2021年3月期末における純資産の残高は2,439億41百万円となり、前期末に比べ334億86百万円増加しました。

主な要因は、利益剰余金の増加247億14百万円、為替換算調整勘定の増加81億9百万円です。

キャッシュ・フローの状況

2021年3月期の営業活動によるキャッシュ・フローは528億82百万円の収入(前期比0.9%増)となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益370億10百万円、減価償却費292億56百万円、売上債権の増加額97億83百万円、法人税等の支払額49億3百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フローは422億18百万円の支出(前期比3.3%増)となりました。主な要因は、固定資産の取得による支出439億8百万円です。

財務活動によるキャッシュ・フローは126億4百万円の収入(前期は48億51百万円の支出)となりました。主な要因は、長期借入れによる収入205億円、配当金の支払額37億60百万円、長期借入金の返済による支出26億66百万円です。

以上の結果、2021年3月期末における現金及び現金同等物は、前期末に対して245億円増加し、817億85百万円となりました。

2021年3月期末の外部からの資金調達は、短期借入金185億円、1年内返済予定の長期借入金134億62百万円、長期借入金417億88百万円からなっています。借入金は原則として日本において固定金利で調達しています。

さらに、財務の安定性のため期間3年、300億円のコミットメントライン借入枠を設定していますが、2021年3月末現在未使用です。

太陽誘電は、健全な財務状態と営業活動によりキャッシュ・フローを生み出す能力を有しており、太陽誘電の成長を維持するために将来必要な運転資金および設備投資資金を調達することが可能と考えています。